受付番号　第 *2026032* 号
承認日：2026 年 10 月 15 日

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

生活背景を踏まえた支援によりインスリン離脱に至った２型糖尿病維持透析患者の１症例

2. 研究責任者(当院)

所属： 聖隷佐倉市民病院
氏名：長谷川裕美

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

該当なし

3. 分担研究者(当院)

該当なし

4. 研究対象者

当院透析センターにおいて、2 型糖尿病を合併する維持透析患者のうち、インスリン療法を継続しているにもかかわらず高血糖が持続し、血糖推移、インスリン投与状況、食事内容、間食の状況、体重、症状、生活背景等を評価した結果、医師との治療方針の検討し、最終的にインスリン離脱に至った患者１名を対象とする。

5. 研究の必要性

透析患者の糖尿病管理では､血糖値や薬物療法だけでなく､患者個々の病態や食事内容、生活状況などを把握し、血糖コントロール不良の背景を捉えることが重要である。本症例では、肥満を伴う２型糖尿病維持透析患者で、1 日 4 回のインスリン療法を継続していたにもかかわらず血糖値 200～300 ㎎/dl の高血糖が持続していた。透析日と非透析日で明らかな血糖値の差を認めず､食生活では冷凍チャーハンなどの炭水化物食を多く摂取し､ポテトチップスや菓子パン等の間食も習慣化されていた。また、夕方に「気持ち悪くなり、食べると落ち着く」という理由から間食をしていた。
夕方の気持ち悪さについては低血糖の可能性も考え、症状出現時の血糖測定を依頼したが実施されず、低血糖の有無は確認できなかった。一方、夕食前の血糖値は間食後約 2 時間の値であり、200～300 ㎎/dl を示していた。これらの状況から、血糖測定の時間や間食の状況を踏まえて血糖値を捉え直す必要があった。また、昼前のインスリン投与量が朝夕食前よりも多く設定されていたことから、低血糖の可能性も考慮し、インスリン量の見直しや間食や炭水化物摂取が多い食生活に着目し、GIP/GLP-1 受容体作動薬製剤の導入を医師に提案した。
その結果、インスリンを減量した後、最終的にインスリンから離脱し、血糖値は 95～160 ㎎/dl 程で推移した。本症例を通して、患者の訴えや生活背景、食事内容、間食の理由、血糖測定の実態等を丁寧に把握することが、治療内容を見直す上で重要であることを学んだ。また、糖尿病看護認定看護師としての知識と特定行為研修で得た知識を活用し、患者の生活と病態を結び付けてアセスメントすることが、個別的な糖尿病治療の支援につながったと考える。
本症例における患者の生活背景や、症状、食事内容などを踏まえたアセスメントからインスリン離脱に至った経過を振り返ることは、維持透析患者の血糖コントロール不良に対して、患者の生活を基盤として治療を捉え直す糖尿病看護の実践を検討する上で意義があると考える。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

本研究は､診療録を用いた後ろ向き調査であり､研究のために新たな検査や治療、アンケート等を行うものではない。そのため、研究対象者に身体的・心理的な負担が生じる可能性は少ないと考える。一方、診療録から得られた情報を用いるため、個人情報の漏洩などのリスクが考えられることから、対象者を特定できないよう情報を匿名化し、適切に管理する。
医学上の貢献としては、インスリン療法を継続しているにも関わらず高血糖が持続する維持透析患者に対して、患者の病態や生活状況、血糖推移を総合的に評価し、治療そのものを見直した経過を明らかにすることで、透析患者の個別的な糖尿病治療および支援を検討する上で一助となると考える。

7. 対象者､関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151(代表)
担当者氏名：外来看護師 長谷川 裕美
対 応 時 間：平日 9:00～17:00

共同研究において専用窓口がある場合

該当なし